

ゆうりんだより

2016.05
Vol.22

手帳

ゆうりん施設長 中上 純二

ここに、3年間分の手帳があります。今でも、読み返すと、さまざまな状況、情景が昨日のことのように浮かびます。

児童養護施設ゆうりに着任して3年が過ぎました。文字通り「あつという間」の3年間でした。

思い返せば3年前、ある人との縁から、「児童養護施設で働かないか？」とお話をいただいたのがきっかけでした。これまで、障がい者支援、そして介護保険制度下で高齢者の方々を支援してきた自分にとって、「児童分野は未知の領域でもあり、後10年ほどの現役期間で挑戦するべきか」悩んだ末、「やはりこれまでの仕事を継続したほうが」と一度はお断りしたことを今でも覚えています。

しかし、ある人の言葉がきっかけでした。「そのお話は、あなたに何かが求められている」

「ワーカーとしてこれまで仕事をさせていただき、自身のライフワークとして、“人を支援する”ことに領域や分野は問わないんじゃないか。いただいたお話であれば、なおさら、何かの“縁”ではないか」と決心し、今に至っています。

「現場職員は施設長も含め、評論家ではいけない。実践家でなければいけない」と思っています。

そこで、一つの誓いを立てました。それが「手帳をつける」ことです。

日々の自分や他者の言動、起きたこと、予定、結果などすべて「手帳」に書き込み、記憶と記録を合致させることで、積み上げていく仕事をしようと決めました。

「自分は施設長として、何をすべきか」自問自答、試行錯誤の繰り返しですが、一つ一つ手帳に刻んでいくことで、仕事を振り返り、自分の言動に責任を持ち、時に朝令暮改にならないよう、努めています。

タブレットやスマホなど記録媒体の進歩はすさまじいですが、やはり自分にとって、手書きの手帳は欠かせない道具です。





ゆりりん

たくさんの人に支えられて、卒業、卒院
 を迎えることができました。
 卒院した児童の「ありがとう。またね」
 の一言には十年以上をゆりりんでも過ごした、
 様々な思い出が詰まっていました。
 そして、また新しい年のスタート。
 たくさん遊んで、笑って、
 けんかして、泣いて、
 仲直りして・・・
 何があるかわからないけどきつと楽し
 い1年になるんだろうな。





ぽかぽか陽気にさそわれて・・・
虫さん、たんぽぽさん こんにちは
春をいっぱい見つけたよ♪



春風が心地よい季節になり、元氣いっぱい
な子どもたちは、毎日外に出てダンゴ虫やカ
エルを捕まえたり、お庭で果物狩りをしたり
しています。今年は、実のつきがよく、ブルー
ベリー、イチゴ、さくらんぼ、びわと沢山の実
を収穫することが出来ました。
夏に向けては、きゅうり、トマトなどの夏野
菜の苗を育てています。出来栄以上に、子ど
もたちがどんな顔をして収穫するのか、今か
らとても楽しみです。



厨房さんお手製のデザートは、
大人も子どもも大好き!!

ふれあいセンターおおだか ～ちびっこの集い～



河西さんありがとうございました。お疲れ様でした。



3月には、保育園や幼稚園に入園する子どもたちが大勢集って行きました。そのため少しの間、静かだった広場は、また、子どもたちの元気な声が聞こえるようになりました。

「ちびっこの集い」は、2、3か月の赤ちゃんから就園前の子どもが利用しています。赤ちゃんは、ママと一緒に遊び、歩行ができる子は、友だちやママと一緒に元気に『竹の子体操』などを楽しんだりします。また、今年度は、親子で楽しむリズム遊びを取り入れます。

利用者の大半が核家族のため、地域の世代の違う方々との交流を取り入れ、子育てを応援してもらっています。

今年度は、地域のお年寄りの方々を季節の行事にお招きし、みんなで楽しめることを計画しています。

5月より「ふれあいセンターおおだか」でお世話になっております丹羽恵津子と申します。

38年間、町立保育所で勤務し、今年3月に退職を迎えました。退職後も小さいお子さんと関われる仕事が続けられることは、大変嬉しく思います。職員の入れ替わりがありました。センターに来てくださる利用者さんの多いことにも驚きました。これも、前任の先生が利用者さんとの信頼関係を築いて来て下さったのだと思います。お話をいただいた時「私に何ができるだろう」と少し消極的なことを考えていましたが、「気持ちよく利用していただくためには」と前向きに考えました。

私は、「挨拶に始まり挨拶に終わる」ということを大切にしています。「笑顔で迎え入れ、笑顔でお見送りする」当たり前のことですが、そこから良い人間関係が構築されていくと思っています。また、安心して利用していただくような環境を整えることや、信頼関係をつくっていくことに努力していきます。どうぞよろしくお願いいたします。



きょうわ

退所した、その後

ホームが開所して4年半が経ちました。この間、ここで生活し、巣立っていった子は15名います。仕事を続けながらなんとか頑張っている子、親の元に戻った子、大学に進学し一人で生活している子、結婚して子どもを産み、子育てをしている子、別の施設に入った子、音信不通の子、様々です。

ホームは20歳までいられるのですが、その前に、門限に縛られたくない、職員に金銭管理をされたくない、友達・恋人と一緒に住みたいなどの理由で退所していく子が多くいます。しかし、実際に一人で生活を始めると、現実は一層厳しく、なかなか生活は思い描いたようにうまくはいきません。仕事を休みがちになり辞めてしまったり、貯金を使い果たし、家賃や携帯使用料の滞納をしたり、食べるものさえないという状況に陥ったりすることもあります。そうすると、ホームの職員が、休日返上で様子を見に行き、援助の手を差し伸べなければならぬこともよくあります。

先日こんなことがありました。退所した後、仕事が続かなくなり、寮を追い出され、行く当てもなく空腹で真夜中にホームを訪ねてきた子がいました。事情を聞き、

今すべきことは何かを話し、朝食を食べさせ、送りだしました。自分で問題に気付き、壁を乗り越えて頑張ってもらうしかありません。優しさや情も時には仇になります。厳しい態度で臨まなければなりません。

社会に出て、一人で困難に打ち勝つていく力を、ホームにいる間に、どれだけ身に付けていけるか、難しい課題です。

ホームの子がこんなことを言いました。「この子と職員は家族だと思っている。でも、ここを出たら独りぼっちでとても不安。」それに対して、「じゃあ一緒に住もうか?」「ご飯作りに行つてあげるよ」「大丈夫、なんとかなるよ」という言葉が返ってきました。とても温かみのある会話が嬉しくなりましたが、同時に職員の使命感を感じ、身の引き締まる思いがしました。

過酷な境遇の中、必死に生きようとしているホームの子と、ホームを退所していった子たちにとって、ホームは、本当の家族のような愛情と厳しさを与えられる場所でありつづけることが求められています。



「性の問題を考える会」を開催しました

5月25日に、ふれあいセンターおねだかにて、ゆうりんの性教育の取り組みを発表し、多くの関係機関の方々に参加していただきました。取り組みについて、さまざまな評価をいただき、自信と課題を見出すことができました。

ゆうりんの子を診たときに施設の子っぽくないと感じました。研修を聞いて、それは職員の正義感の強さ、目の前の子ども一人ひとりを大切にする想いを実践しているからだとよくわかりました。

(あいち小児医療センター 新井康祥先生)

形だけの理念に終わらせず、日々の子ども達との関わりのなかで実行されているところにゆうりんのすばらしさがあると思いました。

(あいち小児医療センター 大橋陽子心理士)



大切なあなたの大変な身体

ゆうりんケアワーカー 洞下 真里



現代の子どもたちは大人が思っている以上にさまざまな情報に晒されています。もちろん、性的な情報も簡単に手に入ります。子どもたちはそれが正しいのか判断する術を持っていないがために被害に遭ったり、ときには加害者になってしまうこともあります。

ゆうりんでは、日々の安心安全な生活のなかで「性教育」に取り組み、性問題への予防教育を行っています。



パーソナルスペース

知らない人にも慣れ慣れしく関わったり、突然抱きつくなどの身体接触をする子もいるため、適切な距離のとり方について話をしていきます。子どもたちは、ワイワイと楽しみながら自分の安心できる距離を知る事ができているようです。また、パーソナルスペースは目に見えないから腕1本分の距離をとるとお互い安心できるよという具体的な距離も伝えるようにしています。

成長と共に喜び振り返る

第二次性徴が始まる小学生高学年に対しては、夏休み前に身体について、職員と1対1で個室で話をします。この際、正しい知識を伝えることはもちろん、成長を一緒に喜ぶことも大切にしています。母子手帳を使って生まれたときのことを振り返ることもしています。

また、個別で話しをするだけでなく、年齢の近いグループを作り、楽しく知識を得る場も作っています。



読み聞かせとロールプレイ

幼児には、わかりやすい絵本を選び、読み聞かせとロールプレイを行っています。人形を使って注意を集めたり、なるべく簡潔に伝わるように言葉を選ぶなど話し合いや練習を重ねて実施するようにしています。昨年度3回の実施では、興味を持って話を聞いたり、恥ずかしがりながらもロールプレイを行うことができました。今後も絵本の幅を広げて定期的に実施していく予定です。

自分の場所づくり

施設では、自他の境界があいまいで自分や自分の物を大切にすると、されるという経験が少ない子が多いのが現状です。幼児グループには自分の部屋を作ってもらい、他の子の部屋への行き来の仕方、自分の大切な物の管理方法について話をしていきます。小学生グループにはゆうりんの間取り図を用いて自分の場所、共有の場所を分け、それぞれの使い方について話し合いを行います。



「性教育」というとなんだか構えてしまいが、日々の生活のなかで身体や心の成長、生命の誕生について正しい知識を伝え、「生まれてきてくれてありがとう」、「大切なあなたの大変な身体を一緒に守っていきましょう」と伝えることだと考えています。

自分を大切にすること、他人を大切にすることができる大人になってほしいと願っています。

職員紹介

ゆうりんケアワーカー

林 瑤子

私は、児童養護施設ゆうりんに勤務して7年目になります。6年間、子どもたちの生活を見守る中で、子どもたちが地域の中で育つこと、地域の方に子どもたちを育てていただいていることを実感することが多くありました。

昨年度から、地域の鳴子踊りの活動の引率をしており、近隣の小学校の体育館を借りて、週1回練習を行っています。現在ゆうりんの子どもたち8人、職員も3人参加させていただいています。7年間続けている子どももあり、参加している地域の方も長く子どもたちを見守ってくださいています。

練習中は楽しく、時には厳しく指導を下さっている先生ですが、子どもたちがそれぞれの課題を達成できるように鳴子踊りの活動の中でも支援していきたいと強い思いを話してくださいいます。また、鳴子踊りのメンバーには、パートとしてもゆうりんの子どもたちを見てくださっている方もいます。子どもたちが調子が悪くて怒れてしまったとき、泣いてしまったときはそばに寄り添い、気持ちが落ち着くまで話を聞いてくださいます。職員には、話せない

気持ちのモヤモヤを吐き出し、気持ちを立て直している子どももいます。

また、悔しい時は「大丈夫、大丈夫」と肩をポンと叩いてくれて、できなかったことが出来るようになった時には「すごいね」と一緒に喜んでくれます。

施設で生活をしている子どもたちにとって、地域に小さい頃から見守ってくれる人がいること、自分のことを分かってくれる人がいることはとても大切なことであると感じています。鳴子踊りはもちろん、同じ幼稚園だった保護者の方々、小中学校のおやじの会など様々な地域の方が子どもたちの成長を見守ってくださいいます。

まだまだ未熟な自分ではありませんが、地域の方の温かなご支援に感謝し、より一層子どもたちの成長のために力をつけていきたいと思っています。



ほだか保育士

南原 和樹

・どうして施設で働こうと思ったのですか？

子どもが好きで好きでたまらないからです。特に生活の中で子どもをみていきたいという思いがあったので、学校の実習をきっかけに施設で働きたいという希望を持つようになりました。

・子どもとの関わりでクソッとしたことや、ほっこりしたエピソードを教えてください。

テレビアニメの「はなかつぱ」を見ている時、3人の子どもたちが、「はなばつか!」「はなばつぱ!」「ばつぱ」と言い争いをしている様子をみて、「はなかつぱ」と言えなかつたことです。

・男性職員として意識的に取り組んでいることは？

部屋でも外でも肩車や高い高いをして、父親のような役割ができるよう頑張っています。

また、棚作りやものの修理など先輩職員に教わりながら積極的に取り組んでいます。

・この仕事をしていて良かったことや心に残っていることは？

子どもたちが言葉をどんどん覚えていって、自分の名前を呼んでくれるようになった時がとても嬉しいです。

「髪切った?」と聞かれた時はとても驚きましたね。

・休みの日の過ごし方は？

お酒を飲むことが好きですが、正直これといった趣味がなくて困っています。最近ひとりカラオケをかじり始めています。

・今後の抱負を教えてください。

まったり、のんびり、子どもたちと過ごしながら、子どもたちを幸せにしていきたいです。目指せイクメン!



平成27年9月1日から平成28年3月31日までに寄贈招待ボランティア活動にご協力いただきました方々のご紹介をさせていただきます。紙面の都合上内容は省略させていただきます。順不同敬称略記載されていない方がございましたらお許しください。

【個人】

石井祐治 福原亜也美 早川久代
蜂須賀正子 堀川道子 西海昭延
川辺清次 高阪正春 永尾幸子
山村直史・由賀里 片岡志保
河西ヒロ子・知子 渡邊房子
町野芳恵 杉浦孝一 佐竹一予
山田ヒロ子 中村彰良 伊藤伊都子
伊藤壽重 鈴木享 鈴木弘茂・美江子
山口洋子 水上脩 若尾かね
松永正子 山口浩導 田中光代
門川ひとみ 梶野智子 後藤節子
岡田法男 佐々木やえ 仲野禮子
植田望 西田昌吾 野津信子
八住智明 小林弥南 紙屋祝子
児玉克己 児玉京子 大原誠章
鈴木義昭 持橋いくよ 山田育弘
山口実・春美 藤川尚士 上村優子
山本範子 西川協治 後藤雪江
島戸修史 道山朋子 山口ミツノ
飯島将司 河井道子 加藤治保
中山芳恵 中嶋洋 下村康範
久野貴洋 林正彦 川瀬喜世美
大瀬良美沙紀 村上 山口晃司
鈴木勝 浜島四郎 一杉 治夫
倉地敦子 金田和久 谷本美枝子
北尾実 門司一徹 松山信
田中忠義・めぐみ 濱地真知子
西川慶子 カワスミ 大川光輝
西川紀子 峰野充子 泉里紗
畔柳まどか 永谷康信 谷藤沙希
富田咲良 星野美弥子 星野雄大
種洋史 寺尾法子 山口保

【法人】

リビングデイサービス
シモエー不動産 日本システム開発㈱
エステイケー㈱ 三ツ甚

水上姉子神社 山田鶏卵販売所
大野加工流通㈱ アジャスト㈱
東亜ライン㈱ 緑区更生保護女性会
たちばなボランティア アオキ工業
サンスイサービス㈱ 山本歯科医院
大高学区民生・児童委員協議会
名古屋商工会議所・守山商工会・鳴海商
工会・有松商工会 結㈱
DRIT日本会 はの箱助成金
共同募金義援金 富士ダイス㈱
Grace Truth Charch
㈱ジェイ・ストーム
宗教法人 カトリック聖マリア在俗会
エイトデザイン㈱ 圓道寺 勝鬨寺
ボッカサップフードビバレッジ㈱
グランドオータ888鳴海店
平成観光㈱ 尾州商会㈱
中部アニマルセラビー クオーレ㈱
フィリップモリスジャパン㈱
オールドリバー㈱ チュチュアンナ
全国シヤンメリー協同組合
日本鏡餅組合 荒川精肉店
ライフサポート仁科 なかむら耳鼻科
名古屋食肉三水会協同組合
ジェームス・ヘイボン 名古屋食糧㈱
名古屋名南ロータリークラブ
NPO法人ブックサポートONE
コープあいち みどりの会
一步の会 ジャステイス㈱
楽天サンタプロジェクト㈱
愛知県共同募金会 日本テック㈱
緑区社会福祉協議会 ひしわ㈱
中村電気サービス㈱ JAあいち
地域計画建築研究所㈱
大野加工流通㈱ オサムファーム
ホテルメルパルクNAGOYA
ヒルズウォーク徳重ガーデンズ
成田酒販㈱ ゆうちよ銀行㈱
ビューティトップヤママト㈱
日本ベビーフード協会
東芝㈱中部支社 東昌寺
アバマンショップネットワーク㈱
セブンイレブン名古屋大高南店
エイトデザイン㈱ ベル・シャポー㈱
プレム・ラワット日本事務局



小舎裏の敷地に小さな園庭ができました。

カープス大府勤文前 中部善意銀行
遊都㈱ レインボー港店
安納スウィーツファーム㈱
名古屋のタイガーマスコ
ダスカジャパン クアウテモック㈱
タキヒョー㈱ 熱田神宮宮庁
名古屋東山ロータリークラブ
日本ゼネラルフーズ㈱
名義クラブ 社団法人名古屋中法人会
特定非営利活動法人 日産労連NPOセ
ンター「ゆうらいふ21」
愛知県社会福祉協議会 ITO
木村スポーツ りんの会
マニユライフ生命 Shrimp
名古屋東南ロータリークラブ
名古屋熱田ロータリークラブ
霊友会 中京大遊びグループ
華調舞月 日本福祉大学
おやじの会 ニヤンニヤンジャー
大高学区スポーツ推進委員
山口晃司三弦会 ちびっこ集
EIGHT DESIGN㈱
名古屋観光ホテル
㈱ダッドウェイ
中部楽器技術専門学校
㈱ブライド・トウ・ビー
㈱ソロピッツアチエザリ
㈱フジトランスコーポレーション

● COLUMN ●

児童養護施設では、退所した子どもたちに
対して、「アフターケア（自立支援）」と称
して支援を行っています。

ゆうりんでは、昨年度一年間のアフターケ
ア（自立支援）の状況は、次のとおりです。

（数字は延べ数）

- ・子どもに電話をかける（メール送信）
197回（2～3日に1回程度）
- ・子どもから電話を受ける（メール受信）
278回（1～2日に1回程度）
- ・子どもの家庭を訪問する
25回（月2回程度）
- ・子どもが施設に来る
130人（毎月10人程度）
- ・子どもと関係機関と一緒にいく
28回（月2回程度）
- ・子どもと外食する
24回（月2回程度）

日常の施設での仕事の傍ら、退所した子ど
もたちの支援をしている職員は、子どもたち
のさまざまな不安や思いがわかるからこそ、
こうして相当な頻度のアフターケア（自立支
援）を実践しています。児童養護施設は「アフ
ターケア（自立支援）」も仕事のひとつでは
ありますが、財源はありません。

仕事が終わったあと、ごはんと一緒に食べ
たり、家庭訪問したり、という一つ一つの地
道な活動が、子どもたちの自立につながる、
という職員の真摯な思いに込める手立てを
模索しています。